日本語を母語としない子どもたちとともに

JSL　日本語指導教育研究会通信

JSL（＝Japanese as a　second　language）

令和3年4月　第1号
発行者　会長　瀬村　進
日本語指導教育研究会　事務局

第１回研修会　オンライン開催

研修１　今年度のJSL日本語指導教育研究会について

・JSL日本語指導教育研究会について　　日本語サポートセンター　原田徳子先生

・新しく担当になられた先生の自己紹介　春吉小学校　　大漉裕子先生

筑紫丘小学校　有松由衣先生

・年間計画等について　　春吉小学校　　枝村理恵先生

博多中学校　　横山小織先生

今年のJSL研究会の研究主題は、「JSL児童生徒の多様性・複雑性に応じた　体系的な日本語指導や適応支援の工夫及び日本語指導支援システムの適切な運用のあり方の研究」となっています。研修会の冒頭では、今年のテーマに沿った様々な研修内容の説明がありました。昨年度からに引き続き、福岡市の学校においても新型ウィルス感染症の拡大に伴いさまざまな変化と対応を求められる一年になると思います。そのような変化の激しい中でも、私たちは日本語指導に携わる者として常に子どもたちに寄り添い、学びの機会を失うことのないよう日々努力や工夫を重ねていくことが大切だと再認識しました。

○配置部会や小学校部会など研修形態が多様化されていてニーズにあった研修ができそうだと思います。
○1年間の研修内容について見通すことができました。
○具体的に説明していただけたのでイメージがわきやすかったです。

研修２　配置校・拠点校の「年度初めの受け入れ」について

筑紫丘小学校　小田潤子先生　博多中学校　萬石ゆかり先生

研修２では、「面談」「担任との打ち合わせ（特に外国人児童生徒が初めての場合）」「指導員の先生との打ち合わせ」の３点に絞り、小・中配置校・拠点校、それぞれ６グループに分かれ、オンラインでの交流を行いました。小グループで話し合いをしたり、日ごろから活用されている資料等を見せあったりすることで、テーマに沿った具体的な話し合いをすることができたようです。また、顧問の先生方に参加していただいたことで、貴重なご意見をいただくこともできました。さらに、中学部ではそれぞれの資料の中から、自校でも活用できそうなものを１つにまとめて、さらに面談時に活用できる資料を作成することができました。

また、面談時には保護者も児童生徒も不安な気持ちでいます。言葉だけの説明では十分に伝わらないことが多くあります。不安を招いてしまわないよう、温かい受容的な雰囲気をつくり面談に臨むことを心がけたいものです。

○各学校によって、家庭の状況や保護者の意識などの違いあり、様々な工夫がされていることを知ることができよかったです。
○他校のいろいろな取り組みを聞けてとても参考になりましたた。また資料の共有もできてとても有意義でした。